

## 木津川市における「ふるさと学習」の展開について

木津川市教育委員会

### 1 ふるさと学習とは

小中学校における「ふるさと学習（ふるさと教育・郷土学習）」とは、学校がある地域の自然、歴史、文化、産業、そしてそこに暮らす人々などの教育資源（ひと・もの・こと）を活用し、ふるさとへの誇りや愛着を育み、将来地域に貢献しようとする意欲を育てる教育活動のことです。

### 2 ふるさと学習の目的

ふるさと学習は、単に知識を習得する学習ではなく、以下のような人間形成や能力の育成を目指しています。

#### (1) 郷土への愛着と誇りの醸成

地域の魅力や良さを再発見し、「自分の住む町が好きだ」という自己肯定感やシビックプライド（市民としての誇り）を育みます。

#### (2) 探究力・課題解決力の育成

地域の身近な課題（例：少子高齢化、環境問題、伝統工芸の後継者不足など）に目を向け、自ら情報を集め、考え、解決策を導き出す「探究的な学び」を実践します。

#### (3) 地域社会へ参画する意欲の喚起（社会性の育成）

「自分たちにできることは何か」を考え、地域活動に参画することで、社会の一員と

しての自覚や、他者と協働する心を培います。

### 3 授業での位置付けと具体的な活動例（別紙参照）

主に「総合的な学習の時間」や「生活科」を中心に、社会科や理科などの各教科と連携して年間計画に位置付けられます。机上の学習にとどまらず、五感を使った体験活動や地域住民との交流（対話）が重視されるのが特徴です。

| 学習のテーマ | 具体的な活動例                                      |
|--------|----------------------------------------------|
| 自然・環境  | 地域の山林や河川での自然観察（フィールドワーク）、環境保全活動、地域特有の動植物の調査  |
| 歴史・文化  | 地域に残る史跡や文化財巡り、お祭りなどの伝統行事への参加・継承活動、郷土芸能の体験    |
| 産業・仕事  | 地元の農家や企業での職場体験、伝統工芸品の制作体験、特産品を使った商品開発や PR 活動 |
| まちづくり  | 地域のキーパーソン（住民・起業家）へのインタビュー、地域の課題解決策をプレゼン（提案）  |

### 4 現状と課題

各学校において工夫を凝らした学習活動が展開されている一方で、以下の課題が見受けられます。

#### (1) 学校・教員の負担とノウハウの属人化

地域人材の開拓や地元企業・農家等との交渉を教員個人が担っているケースが多く、

教員の業務負担となっている。また、担当教員の異動により、活動が継続されない場合があります。

(2) 学校間の取り組みの差異

各学校の裁量に委ねられている部分が大きく、全市的な統一ビジョンや体系的なプログラムが明確化されていないため、地域によって学習内容の深度にばらつきが生じています。

(3) 首長部局（まちづくり・産業・観光等）との連携不足

ふるさと学習は「学校教育」の枠内に留まりがちであり、産業振興や移住定住促進など、首長部局が持つリソースや政策との連動が十分に図られていません。

5 協議事項（論点）

上記の課題を解決し、ふるさと学習を「地域総がかり」で推進するきっかけとするため、以下の事項について協議・意見交換を実施します。

- (1) 「ふるさと学習」の全市的なビジョンの共有
- (2) 学校と地域・企業をつなぐ「コーディネート体制」の強化
- (3) 「首長部局」と「教育委員会」の連携の構築